

第3回 福智町 歌謡・詩吟発表会
百曲を超える大演目の6時間ステージ

文化連盟主催の「歌謡・詩吟発表会」が6月28日に地域交流センターで開催されました。高校生からベテランまでの歌い手たちが108のプログラムで自慢のノドを披露。およそ6時間にわたる熱唱を、延べ300人の観衆が聴き入りました。ラストステージでは、演歌歌手の藤かおりさんが特別出演し「福智音頭」をはじめ4曲を歌い上げ、舞台上に花を添えました。



↑こだわりの衣装や舞台演出も見所、曲の内容と共に歌声の魅力も膨らみます。

↑11人の保護司がポケットティッシュや啓発冊子など600セットを町内で配布。



社会を明るくする運動
立ち直りを支える更生保護を啓発

田川保護司会福智支部の保護司11人が、7月10日に「社会を明るくする運動」を町内でPRしました。この運動は、安全で安心な社会の実現を目的とした法務省主唱の全国的な取り組みです。犯罪や非行を防止し、あやまちをした人の立ち直りを地域社会の中で支えていく「更生保護」の活動について、啓発冊子などを配布し、広く理解を呼びかけました。

次世代育成支援行動計画策定委員会がアンケート
子どもと子育て家庭の視点で策定中

子育てに関する町内団体や機関の代表者などで組織する「次世代育成支援行動計画策定委員会」が6月に発足し、7月中にアンケート調査を行いました。町内の子育て中の1千世帯を無作為抽出し、家庭と親の意識や要望など、福智町における現状把握に努めています。策定委員会はこの結果を踏まえ、本年度中に5年間にわたる行動計画を策定する予定です。



↑加速する少子化への対策を検討する委員会、12人の委員で構成されています。

↑ペットボトルを抱えて浮く練習を経て、手放しても浮けるようになった児童たち。



上野小「命を守る着衣泳講習」
服を着たままで浮く水難防止術

上野小で全児童を対象にした水難被害防止の「着衣泳講習」が、7月14日に初開催されました。福岡着衣泳会や海上保安庁の10人が約120人を指導。川や池に落ちたことを想定し、服や靴を身に着けた状態と水着との違いを体験しました。自分や友達の命を救うため、服を着たままで「浮いて救助を待つ」練習を重ね、約1時間でほとんどの児童がコツを覚えました。

↑上野焼窯元の指導を受けながら50人の子どもたちが手口クロを回し、自分だけの器を成型しました。



上野焼子ども作陶教室
陶土と郷土の伝統に触れて

子育て連主催の「上野焼子ども作陶教室」が7月12日に中央公民館で開かれました。先着50人の募集定員が1日でうまるほどの人気イベントで、上野焼協同組合から6人の陶芸家が指導にあたりました。この日を楽しみにしていた子どもたちは、あらかじめ自分が作ろうとイメージした形を思い浮かべながら、土に向かって作陶に集中。窯元から伝統的工芸品や上野焼の特徴についても説明を受け、やさしい手ほどきに導かれながら、真剣な表情でそれぞれの思いを込めた形を完成させました。

同和問題啓発強調月間の街頭啓発
人権尊重を一人ひとりに呼びかけ

福岡県と県内市町村が取り組む「同和問題啓発強調月間」の初日にあたる7月1日に、町内の街頭啓発と企業訪問が行われました。町長をはじめ職員が、公共施設やスーパーなどの5か所と31社の企業で、およそ1千部の啓発チラシとタオルを配布。1日も早い同和問題の解決を目指して、1人ひとりに人権意識の高揚と月間中の行事への参加を呼びかけました。



↑街頭で啓発タオルとチラシを手渡し、取り組みへの理解と参加を呼びかけました。

↑先生が壇上に。「ドレミの歌」のかわいい振り付けで会場が笑顔に包まれました。



子どものためのクラシックコンサート
オーケストラの音色に3校児童が感動

伊方・弁城・上野小の335人を対象にした「子どものためのクラシックコンサート」が、6月18日に地域交流センターで開かれました。冒頭から美しい音色で心をつかんだ「福岡サロンオーケストラ」のステージは、楽器の裏話や寸劇、指揮者体験など興味をそそるプログラムが満載。児童は生演奏の迫力を肌で感じ、音楽への関心を一層高めたようでした。